

### 3 ピンカ花壇苗のポットの大きさと栽培密度

#### ねらいと成果

花壇苗の需要はガーデニングブーム等により増え続けている。しかし、県下の生産農家は比較的小規模な経営が多く、規模拡大も難しい現状である。そこで限られた施設でより多くの生産を行うために、ポットを慣行の9cmポットから7.5cmポット、6cmポットへと小型化し、それによる高密度栽培について検討を行った。

その結果、ポットを小型化することによって草丈、株張りは小さくなったが草姿バランスは良くなった。栽培密度は9cmポットの慣行密度(128ポット/㎡)に対し、7.5cmポットで154ポット/㎡、6cmポットで205ポット/㎡の栽培密度で9cmポットと同等以上のまとまった草姿となった。

#### 内容

供試品種は「ラズベリーレッドクーラー」で、4月14日に播種し、5月27日に鉢上げした。9cmポットの128ポット/㎡を慣行の栽培密度として、7.5cmポットでは128~205ポット/㎡、6cmポットでは128~333ポット/㎡の密度で栽培を行った。調査は鉢上げより1週間ごとと、各区の80%が開花した時点でを行った。

鉢上げ後4週間目からポットサイズ及び栽培密度による草丈の差が見られた。慣行の栽培密度ではポットサイズが小さくなるほど草丈は小さくなった。7.5cmポットでは栽培密度が高くなる程大きくなり、

179ポット/㎡以上ではかなり徒長した。6cmポットでは128~179ポット/㎡までは草丈に差が見られなかったが、205ポット/㎡以上の区では密度が高くなるほど草丈は大きくなり、282ポット/㎡以上ではかなり徒長した(図1)。

株張りは6cmポットでは鉢上げ2週間後、7.5cmポットでは4週間後から、9cmポットより小さくなった。しかし、開花期に到るまで栽培密度による差は見られず、株張りは7.5cmポットでは9cmポットの92~93%、6cmポットでは79~82%となった(図2)。

以上の結果、ポットを小型化することによって草丈及び株張りは小さくなったが、草姿バランスはよいものが得られた。草姿バランスを株張りに対する草丈の比率で見ると、慣行の栽培密度では9cmポットで0.82だったのに対して、7.5cmポットでは0.71、6cmポットでは0.75となり、0.7に近い良好な草姿となった。また、高密度栽培においても7.5cmポットの154ポット/㎡以下、6cmポットの205ポット/㎡以下の密度で9cmポットを下回り、まとまった草姿となった。

#### 普及状の注意事項

ポットを小型化することによって、従来よりもかん水やわい化剤処理等に注意する必要がある。

神戸 隆(中央農技 園芸部)

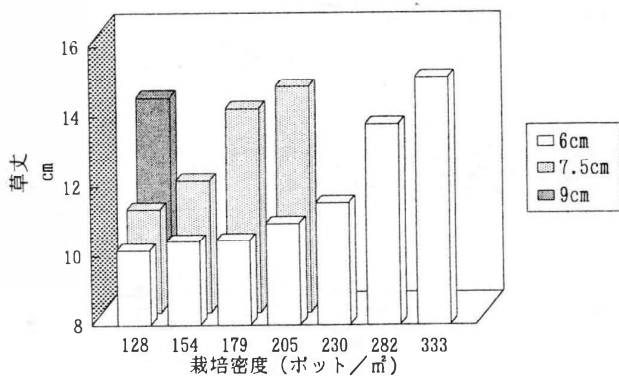


図1 ポットの大きさ及び栽培密度がピンカの草丈に及ぼす影響

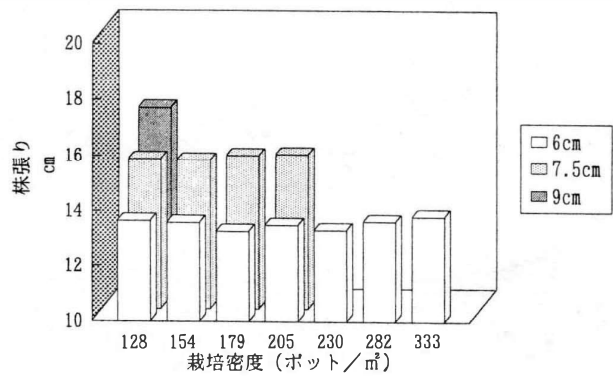


図2 ポットの大きさ及び栽培密度がピンカの株張りに及ぼす影響